



今月実施しました防災避難訓練に皆様は参加していただきましたか？今年の異常気象による風水害の発生、台風の上陸、更には北海道で発生（9月6日未明）した地震で甚大な被害が各地区で発生しています。

皆様の家庭での備えは大丈夫でしょうか、今一度見直しをしてください。

災害発生に備えて、家庭・地域にどのような防災資機材があるか、災害時に利用できる物・場所などを確認しておき、いつでも使用できるようにしておくことが大切です。

防災マップ、防災活動に活用できる資格・技能を持っている人の情報、消防署・消防団や警察署、病院や診療所、福祉施設、商店や工場などの位置や空き地、丈夫な建物、津波からの緊急避難のための高い建物や高台の空き地など防災活動上活用できる施設も把握しておく必要があります。

1、防災資機材の整備・備蓄・調達

各家庭にあるものや定常時から災害時に利用できるものなどを確認し、定期的に点検を行い、いつでも使用できるようにしておくことが大切です。



2、地震で停電した時の注意事項

あかり取りの目的で、屋内でロウソクなどの裸火は極力使わないでください。火災発生の原因になります。手元に懐中電灯などを準備しておいてください。予備の電池も準備しておくことをおすすめします。

自宅を離れるときは、必ずブレーカーを落としてください。通電が再開されたら、電気機器やコードが損傷していると火災の発生となる場合があります。

3、事業所との連携

地域の自主防災活動を進めていく際、事業所などが持っている資機材やノウハウ・技術を把握して活用することが大切です。

例えば、事業所などが持っている消火器や消火剤、工作資機材・車両などは、消火活動や救助活動等に役立つ可能性もあります。更に、事業所などの敷地や建物を避難などのために一時的に使用させてもらうことも考えられます。

地域の一員である事業所に対して、協力を呼びかけ、地域と事業所が連携して防災活動を進めていくことが大切です。

裏面につづく

回 覧								

防災ニュース「きらら」は単独で回覧をお願いします。

3、災害時に危険な場所や活動時に障害になる場所

自分達の住んでいる地域が、災害に対してどのような弱点があるのか、日常から地域の実情に詳しい消防団等と連携しながら、把握しておくことが重要です。

地域内の危険な場所としては、津波、高潮、地すべり、崖崩れなどの危険個所のほか、老朽住宅の密集地域や危険施設の周辺地域などがあります。

また、路上の自動販売機や放置自転車などは、地震による揺れで倒れてしまい、避難の障害になります。狭い道路も、沿道の家屋のブロックなどが倒れて、通行の妨げになることがあります。



～次のような場所があるかチェックしてみましょう～

- ・海岸部（津波・高潮）、急傾斜地・背後に山地がある宅地（崖崩れ等）、建築年次の古い住宅が密集した地域、ダムの下流地域、河川面や海面より低い地域
- ・危険物（毒劇物、石油・ガソリン等）を取り扱う施設周辺
- ・商店街・アーケード・ビル（ガラス、看板、屋外設置物等が飛散する可能性がある場所）
- ・自動販売機や放置自転車など路上にあるもの（地震の揺れで倒れて通行の障害になる可能性のある場所）
- ・幅の狭い道路、交通渋滞が発生しやすい道路、路上駐車が多い道路
- ・倒壊の危険性のあるブロック塀や門柱
- ・電柱（大きな揺れが起きた場合は傾斜する可能性） など

4、災害時の救出活動・消火活動・被災後の生活に役立つ場所

地域内の医療機関や福祉施設、事業所など多くの人を利用する施設があります。

河川やため池、学校等のプール、貯水槽や防火用水、井戸などの水源は、消火活動や生活雑水として活用できますし、公園や緑地、広場、公民館・集会所の庭などは、一時的な避難場所になったり、炊き出しなどの活動の場としても役に立ちます。

～次のような場所があるかチェックしてみましょう～

- ・一時的な避難場所や災害時の活動場所として活用できる場所（公園・駐車場・緑地、学校の校庭など）
- ・一時的な避難所として活用できる施設
（学校施設、公民館・集会所、神社・寺院など）
- ・病院・診療所、福祉施設
- ・安全に避難できる道路（避難路）
- ・地域に立地する企業、災害時の協力事業所
- ・河川、ため池、プール、貯水槽、防火用水、井戸などの水源
- ・公衆浴場、企業の保養施設 など

